

集会アピール (案)

私たちは11月22日～24日の3日間、京都市で平和・人権・民主主義を考える第50回全国高校生集会を開催しました。今集会は、1964年に京都で開催された第1回全国高校生部落問題研究集会からちょうど半世紀を迎えた記念すべき集会となります。

1日目は、東京大学大学院教授の小森陽一先生から「百年目の『こころ』と日本国憲法」というテーマでお話を聞きました。先生ご自身の高校時代の思い出にも触れながら、「こころ」を明治という漱石の生きた時代の歴史背景に触れながら漱石が作品を通して伝えようとしたことなど先生のお話から多くのことを学んだように思います。特に私たちが印象に残ったことは、漱石が学習院での講演で、「自分を自由するためには、それとおなじくらい他者の自由を尊重しなければならない」という内容です。ともに、日本国憲法の基本的人権や公共の福祉について考えていくきっかけをつくってくれたと思います。

2日目からは、4つの分散会でレポート報告を聞き、討論を行いました。発表されたレポートは生徒会活動や学校行事、「リア充」や「オタク文化」など現代の高校生の問題、平和・戦争にかかわる問題、原発再稼働とエネルギー問題、災害復興支援の問題などの内容があり、各分散会で多岐にわたった討論・意見交換が行われました。

学校ごとに特色がある生徒会活動や学校行事が行われていることを知ることができました。文化祭や体育祭の行事に向けての取り組みや、生徒と学校との間の意思疎通の様子、生徒会活動の在り方など多くの話題で話し合うことができました。「リア充」や「オタク文化」など高校生の身近な話題もとらえられ話し合うことができました。

また、「身近な戦争遺跡や地域の歴史」について話し合われ、「加害の歴史」にも触れることもできました。原発再稼働とエネルギー問題では、「自分の家の近くに原発が建つとどう感じるか」という視点から原発の是非についても考える必要があることが指摘されました。東日本大震災や広島の高雨災害のことも話し合われました。私たちの募金が現地に届いていないこと、時間の経過とともに被害が忘れられていることなどに触れ、確実に継続的な支援が現在も必要とされていることを知りました。自分たちの身近なところで見たり、考えたりすることに気づかせてくれた分散会でした。小森先生が講演で触れられた「他者の自由を尊重する大切さ」もレポート報告や討議で確認することができました。

2日目の夕刻には、参加者全員が一堂に集まって交流会を行いました。歌や振り付けを教えてもらい、知らない人たちといっしょに歌ったり、踊ったりするうちに緊張がほぐれ、話をするなど楽しく交流することもできました。

この三日間で、私たちは様々な問題について色々な見方をし、意見交流をしました。これらを通して、多くのことに気づき、新たに学びました。また、自分の意見をより深いものにできました。私たちはこの集会で学んだことを自分の学校生活に生かすと共に、周りにいる人に伝え、そして、自分たちの意見や思いを社会に向けて発信していかなければなりません。この積み重ねによって、きっと、新しいものが見えてくるはずです。

来年からは、集会の形が変わりますが、これからも多くの人たちが平和・人権・民主主義について考え、交流を深める活動が続けていきましょう。

2014年11月24日

平和・人権・民主主義を考える第50回全国高校生集会